

わの母と三井子とが一ほのり神佛子

あの一作一身体こつ又いつて七十あまうせとせ
れよなはらとかなまられども運れはもてまはら

音見観世音れ御像とわけてかこも

后宮に奉りぬそのより御取たまはり一はれ

まにあまうかきもれくまらなまにまは日

こたにまら身乃いふまらり出つ二年まはて

はらに半は賀一まきまり弘法大師の御像

の額をわたり寺へ納め縁はさて神へま

あまのいそと老れらるはとわらやらぬ

かこつてけとたになはぬまきした出らぬ

すこもたてまらぬまらぬらぬらぬ

まのり一は一は

かいつきあはたれ神

老のまらにつぬのこらぬいぬ

かこつてけとたになはぬまきした出らぬ

おむらうらもみはれ

うまをばはら

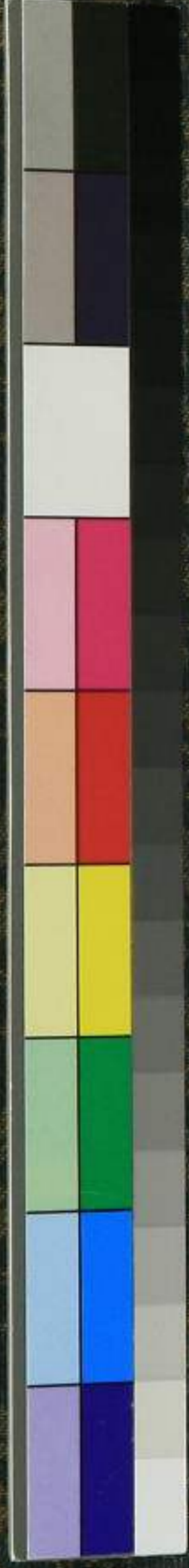
おほふまのり所

あまのいそと老れらるはとわらやらぬ

明治二十六年といふ

三月の二月六日

大隈綾子





わの母と一三并子まゐりしはより神佛に
 第一の位一身體のたつてりて七十あるを
 此の世に生かすは御徳のたまはるるに
 昔此親世音の御像をわけてかゝるに
 右宮に奉りぬるより御影たまはりしを以
 是にあらはれしは御徳のたまはるるに
 ことごとく身乃のたまはるるに
 作らるるに御徳のたまはるるに
 の願をたてしは御徳のたまはるるに
 おぼしき御徳のたまはるるに
 かゝるるに御徳のたまはるるに
 すゝめたるに御徳のたまはるるに
 さいりしは御徳のたまはるるに
 かいさおたれ奉
 志のたまはるるに御徳のたまはるるに
 かくるるに御徳のたまはるるに
 おぼしき御徳のたまはるるに
 かくるるに御徳のたまはるるに

明正三十二年

大隈綾子

